

決 算 報 告 書

I 事業概況

2019年度は、経営計画「Vision TAKEDA-2020」に基づきプロジェクト活動を着実に展開し、「竹田ヘルスケアタウン構想」の実現に向けて大きく前進した一年となりました。

「Vision TAKEDA-2020」の第1の柱である「地域包括ケアシステムの構築」については、住み慣れた自宅や地域での生活を変えることなく、「第2の家」の機能をもった看護小規模多機能型居宅介護事業所と、主に認知症の方への支援に力を入れた小規模多機能型居宅介護事業所、児童・生徒への発達支援や放課後デイサービスなどを行う事業所をそれぞれ開所し、当財団による「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」の各機能が切れ目なく一体的に提供される体制を構築しました。また、患者さんの入院生活が不安なく行われるように退院まで各職種が連携してサポートする「入院支援センター」を移設・拡充するとともに、医療や介護、福祉にまつわる様々な相談をワン・ストップで受け付け、各部署・事業所に繋げる「竹田まるごと相談窓口」を新設しました。芦ノ牧温泉病院の建替え計画では、新病院の病棟構成を医療療養病棟に加えて、回復期リハビリ病棟や地域包括ケア病棟などの機能を備えた病院とすることとし、2022年度中の完成・運用開始を目指すことになりました。

第2の柱である「ICTの活用による医療・介護の質の向上と地域振興」については、会津管内の医師会や薬剤師会などと連携して、通院が困難な神経難病の患者さんが、自宅や職場に居ながら医師の診察・処方などを受けられる遠隔診療を実施しました。また、電子カルテシステムや新たな機能などを導入した院内医療情報システムを更新するとともに、患者さんの症状に最も適した問診の実施と、医師や看護師などの業務の効率化を図るため、タブレット端末を使用したAIによる問診支援システムを導入しました。

第3の柱である「国際化と人材育成の推進」については、ベトナムから2名の介護技能実習生を受け入れ、総合医療センター病棟で介護アシスタントとして実習を始めました。また、中国・荆州市との交流事業については、当年度も荆州市第一人民医院他から2名の研修医を受け入れるとともに、富裕層の健診・人間ドックも実施しました。

このほか、働き方改革関連法が施行されたことに伴い、医師の負担軽減に向けた準備として労働時間の把握などに取り組むとともに、連続した休日を増やしながらか、切れ目のない医療・介護サービスの提供と収益確保を図る観点から、休診日を変更し、年間を通して1週当たり連続5日間の診療日を確保する体制を構築しました。

医療器機等については、会津地区では初めて（県内で2例目）となる最新・高精度のPET-CTや、手術支援ロボット「da Vinciサージカルシステム」の最新型である「Xi」、人工心肺装置などの高額医療機器を更新しました。

以上により、医業収益は前年度比及び予算比とともに増収となり、過去最高を7期連続で刷新しました。また、給与費などの医業費用が増加したものの、費用の増加を上回る収益の伸びにより、当期利益は6期連続の増益且つ4期連続で黒字を計上することができました。

新年度におきましても、当財団のビジョン経営とプロジェクト活動を着実に進めることにより、安定した収益の確保と経営基盤の強化に努めて参りますので、引き続き皆様のご指導を賜りますようお願いいたします。